

# 全国消防操法大会統一事項

## 出場隊共通事項

- 1 出場隊の服装は、「操法大会実施要綱」の定めを遵守し、努めて質素なものとする。
- 2 新しい活動服で襟の部分までボタンがある場合は、第1ボタンをはずしても良いものとする。
- 3 送水圧力計を一定圧以上あがらないようセットするなどの工作は、しないこと。疑わしい場合は審査班長の判断で、競技終了後に試験を実施して失格等の措置をとる。

## ポンプ車・小型ポンプに関する共通事項

- 1 指揮者が開始報告、終了報告したとき、受礼者は「よし」と答える。(20回)
- 2 集合線上に整頓する場合には1番員が小声で合図してもよい。
- 3 放水停止線等について「停止線等の足の例示図」のとおりとする。
- 4 筒先の取手等を持って走らない。(11回)
- 5 筒先を担ぐときは、プレイパイプ上部を持って担いでもよいが、左手は背負いひもの中央とする。(20回)
- 6 吸管搬送時、体の向きはストレーナー側とし、顔の向きは水利側とする。
- 7 補助員の吸管投入補助時機及び操作は籐かごが水面についた時点から押し込む等の操作をしてもかまわない。(20回)
- 8 吸管投入後の吸管は蛇行した状態でもよい。
- 9 吸管控綱の余剰部分の処理については、規定しない。長さの計測は、行わないこととする。(20回)
- 10 ひかえ綱が何かにひっかかったり、結びが出来てしまった場合は、担当の番員が修正する。(20回)
- 11 ひかえ綱の取り付け位置は籐かご付近でよい。
- 12 吸管補助員は、枕木取り付けのためポンプ車の部の③番員・小型ポンプの部の②番員が吸管に手をかけた時点で吸管を持ち上げてよい。(20回)
- 13 枕木に吸管と控綱を一緒に取り付けないこと。(20回)
- 14 ホースに足が触れた程度では蹴飛ばしとはみなさない。又、スロットル調整時、ホースに接触してもよい。(20回)
- 15 ホース展張時、左手はホースに添えとなっているが、親指は上から押さえて

- もよい。(20回)
- 16 ポンプ側でおおむね2 mの余裕ホースを取るときは、ホースに配意するとき  
に後方に引いて確保し、放口に結合してもよい。(20回)
  - 17 火点側余裕ホース修正に伴うホースの引きずりについては結合金具が移動  
しない範囲であればよい。
  - 18 ホースの結合後、操作員はおす金具付近を踏んだ状態のまま発進してはいけ  
ない。(11回)
  - 19 ホースの展張、ホースの結合離脱、筒先の結合離脱時の足先とは、土踏まず  
にかかっても良いものとする。結合確認は、はかま部分で行うが、親指が金具  
にかかっても良い。(21回)
  - 20 ホースに沿う場合は、おおむね1 m以内に体があればよい。(20回)
  - 21 ホース展張の際、左右にそれた場合は、ホースに沿って走らなければなら  
ない。
  - 22 伝令と復唱は、重複してはならない。(合図も含む)(20回)
  - 23 筒先員が火点側の余裕ホースを作成する際、ホースをたぐり寄せる時は後方  
(ポンプ側)を見ながらたぐり寄せてもよい。(20回)
  - 24 筒先担当員が余裕ホースを取った後の継ぎ足はしなくてもよい。(20回)
  - 25 筒先員が余裕ホースを取った後前進する場合は、基本注水姿勢に準じた姿勢  
とする。(11回)
  - 26 指揮者の火点指揮位置の「①の斜め右前方、おおむね3メートル」とは、①  
番員の左右足位置に関係なく、斜め右前方、おおむね3メートルあれば良い。  
(20回)
  - 27 指揮者の火点状況監視・鎮圧状況監視は、目視でも良いものとする。(20回)
  - 28 ノズル操作時、右手を中央付近に移動させ筒先を抱えるが、確実に抱えるた  
め中央からずれても左右の手が離れていれば中央とみなす。(20回)
  - 29 とび口を地面に置く時や地面から拾い上げるときは両手(交差してもかまわ  
ない)で行う。(20回)
  - 30 ポンプのボタン式自動揚水装置は、使用しても良いものとする。なお、使用  
した場合は、あえて手動揚水動作は必要ない。(12回)
  - 31 真空時及び筒先閉鎖時、一時的にゲージが圧力4 kg/cm<sup>2</sup>又は0.4MPaを越えて  
もよい。(11回)
  - 32 計器の振れについては、振れの中心で圧力の確認をする。(20回)
  - 33 標的を落とした後の圧力及び筒先員交代時の圧力は下げてはいけない。(11

回)

- 34 収納以前にエンジンが停止した場合、再始動すること。
- 35 「排水止め」の指示は、上向きでノズルを開いた時点から約10秒後とする。  
(20回)
- 36 指揮者の服装点検の時機は、最終の隊員が器具を収めた後、集合線上に集まった時機とする。(20回)

## ポンプ車に関する事項

- 1 乗車時、ドアを開けさらに移動する場合、基本の姿勢、いたりの姿勢どちらでもよい。(20回)
- 2 ドアなしポンプ車の安全バンドはシートの上に乗せておき、乗車後に掛け、下車後再びシートの上に乗せること。(11回)
- 3 下車時、火点監視は必要ない。(20回)
- 4 下車時の体の向きは火点側、車体側のいずれに向いてもよい。
- 5 ホースの取り扱いを容易にするため、床に板を置く工作を行ってもよい。(ホースの積載位置は奥行き30cm以上とする。)
- 6 ホースを積載部から取るときは、引き寄せる等の操作をしてもかまわない。また、動作については規定しない。ただし、担ぎ方は実施要領どおりとする。  
(20回)
- 7 ②③の第2ホースを「搬送に便利な位置に置き」とは、第1ホースの左右どちら側の位置でも良いものとする。(20回)
- 8 吸管伸長時、タイヤハウス上の吸管受け、ステップ上の吸管受けから吸管を外す必要はない。また、ウインカー等のボックス上を伸長してもよい。(20回)
- 9 とび口の積載位置が高く、ステップ等に乗らなければ、とび口を取ることが出来ない場合は、安全第一な方法でステップ等に乗って取り外し、両足が地面に着いた以降「操法実施要領」による、とび口を持った構えをすれば良いものとする。(20回)
- 10 機関員が余裕ホースを配意する場合は、いったん火点に向いて姿勢を正し、右(左)足を横に開き配意すること。小型ポンプもこれに準ずる。(20回)
- 11 注水補助をする際、補助部署が確保出来ない場合は、ホース修正しながら注水補助位置にいたってもよい。(11回)
- 12 第2線延長開始の時機は、3番員が定位についた後、約10秒とする。
- 13 収納時、ポンプレバーを操作する時ドアは開けたままでもよいし、閉めたま

までもよい。(20回)

### 小型ポンプに関する事項

- 1 控綱を縛着する場所のないポンプは、フックを取り付けてもよい。(20回)
- 2 3番員が定位に着く時は、右向け、左向けの要領で行うこと。(20回)
- 3 1番員が、第1ホースを取るとき、ホースと管そうの間に足を入れてはいけない。(11回)
- 4 吸管バンドは市販されているバンドとする。(マジックバンドは不可)(11回)
- 5 ベルト式の吸管バンドはベルト通しから三角部分が出ていればよい。(20回)
- 6 とび口収納は、水利側を向いていたり、火点側に向きとび口を置くか、又は右向け止まれ(開脚)の要領で停止し、その後火点側を向きとび口を置く。(11回)
- 7 筒先員交替の時機は標的を倒した後とする。
- 8 筒先員交代時、指揮者が左足を斜め後方に半歩下げるとなっているが、1番員の左足横付近でもよい。(20回)

停止線等の足の例示図

